

2011年6月2日

ネック・デコルテの年齢的な特徴を解明
「ネック・デコルテの加齢には、2つのターニングポイントがある」
形態変化や肌状態に合わせたエイジングケアの提案・化粧品開発が可能に

株式会社カネボウ化粧品

カネボウ化粧品・スキンケア研究所は、多くの女性が気にするネック（首）やデコルテ（胸元）の年齢的な特徴に着目し、下顎部・頸部・鎖骨周辺部の形態、および皮膚生理特性を測定、これらの加齢変化に、40～50代、50～60代の2つのターニングポイントがあることを見出しました。

今後は、本研究結果をもとに、ネックやデコルテの形態変化や肌状態にあわせたエイジングケアの提案や化粧品の開発を行っていきたいと考えています。

なお、本研究結果は、6月9～10日に東京で開催される「第36回日本化粧品学会」、6月24日に大阪で開催される「第68回 SCCJ 研究討論会」及び10月31日～11月2日にバンコクで開催される「IFSCC2011 Conference」にて発表する予定です。



二重顎でなく、
くびれがある



二重顎である



二重顎でなく、
くびれがない

ネック・デコルテの加齢には2つのターニングポイントがある

近年、デコルテが広く開いたファッションの流行とともに、ネックやデコルテを気にする女性が増えています。カネボウ化粧品が行った意識調査でも、10年前と比べて首のしわを気にする年齢が若くなっていることや、デコルテのツヤ・ハリ・なめらかさ等を気にしている人が増えていることがわかっています。

しかしながら、ケアとなると、顔用のスキンケア化粧品をそのまま使用したり、特に何もお手入れをしていない人が多いこともわかりました。

そこで今回、カネボウ化粧品は、ネック・デコルテの適切なケアに向け、20代から70代女性90名を対象にネックやデコルテの加齢変化を解明するため、下顎の形態や肌状態についての調査研究を実施しました。その結果、ネック・デコルテの加齢変化には2つのターニングポイントがあることを見出しました。また、顔の皮膚とは、水分と皮脂のバランスが大きく異なっていることなども確認しました。

肌状態が大きく変わる40代から50代

第1のターニングポイントは40～50代です。

実験で、ネックとデコルテの回復皮脂量を測定したところ、どちらも40代から50代にかけて大きく減少することがわかりました（図1）。また、肌の明るさについても、50代から低下。（図2）このことから、デコルテも、顔やネックと同じように紫外線の影響を受けていると考えられます。ネックのしわ形状については、40代を境に本数や深さが急増していることが確認できました（図3）。

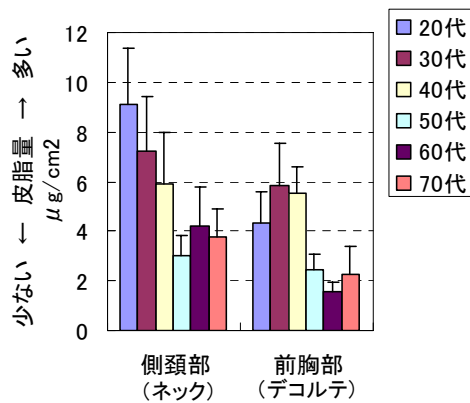


図1 回復皮脂量の年齢変化

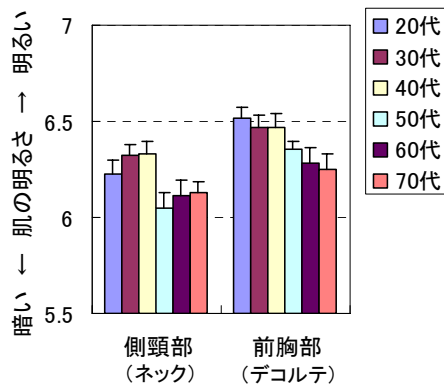


図2 肌の明るさの年齢変化



図3 頸部のしわ形状の加齢変化(各年代の典型写真)

下顎の形態が変わる 50代から 60代

第2のターニングポイントは50代~60代です。各年代の下顎からネックにかけての形態を調査したところ、60代を境に下顎の形態が大きく変化することがわかりました。

調査では、まず下顎の形態を二重顎の有無、ネックと下顎の間のくびれの有無により分類しました。その結果、20代から50代にかけては二重顎の人が増加しますが、60代になると、50代まで見られた二重顎の人が急激に減少、かわりにネックと下顎の間のくびれがなくなり、皮膚がたるんでくる人が急増することがわかりました(図4)。次に下顎の皮下脂肪厚を測定したところ、20、30代では二重顎の方が二重顎でない人よりも下顎の皮下脂肪厚が有意に厚くなっていることがわかりましたが、60、70代では、そのような差は見られませんでした。また、皮膚弾力性を測定したところ、ネックの皮膚は、その形態に関わらず、デコルテや顔よりも加齢による皮膚弾力性の低下が顕著であることがわかりました(図5)。これにより、20代や30代の二重顎には皮下脂肪が大きく影響するものの、60代以降では、真皮結合組織や皮下組織の結合状態の変化が肌の弾力やハリを低下させ、下顎の形態に影響を与えていることが考えられます。

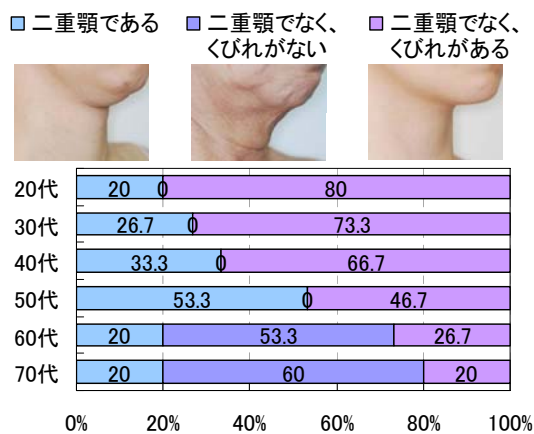


図4 下顎の形態の年齢変化

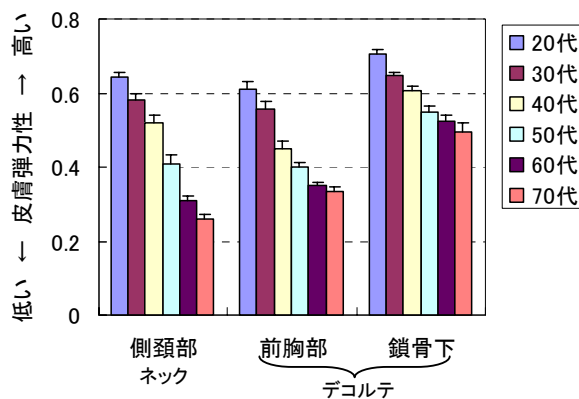


図5 皮膚弾力性の年齢変化

ネック・デコルテと顔の肌との違い

ネック・デコルテの水分量、皮脂量、皮膚血流量なども測定しました。その結果、顔と比べて水分量が多く皮脂量が少なく、顔の肌とは水分と脂分のバランスが大きく異なること、また、皮膚血流量も少ないことがわかりました。さらに、ネック・デコルテは、顔よりも肌の色の黄味が強く、しかもネックでは肌の色が暗いといったこともわかりました。これらのことから、ネック・デコルテの肌は顔の肌とは大きく異なっており、ネック・デコルテの肌に適した化粧品やお手入れ方法の必要性が明らかとなりました。

今後の展開

今回の研究をまとめると、①第1のターニングポイントは40~50代、頸部のしわの本数や深さが増加し始め、頸部だけでなく、鎖骨周辺部においても肌の明度や皮脂量が減少、肌の状態が大きく変化
②第2のターニングポイントは50~60代、50代まで見られていた二重顎が急激に減少。かわりに、頸部と下顎の間のくびれがなくなり、皮膚がたるんでくる人が急増し、下顎の形態が大きく変化となります。

今後は、本研究成果をもとに、年齢にあったネック・デコルテのエイジングケアを提案したり、ネック・デコルテの肌に最適な化粧品の開発を行っていきたいと考えています。

本研究は、6月9~10日に東京で開催される「第36回日本化粧品学会」、6月24日に大阪で開催される「第68回 SCCJ 研究討論会」及び10月31日~11月2日にバンコクで開催される「IFSCC(The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists)2011 Conference」にて発表する予定です。